

コロナ以後いのちの電話への自殺予防相談関係への5倍に増加しました。「人と自由に会えないのでつらい」「コロナの報道ばかりで、だんだん心が弱る」「店を廃業した。このままでは死ぬしかない」との切実な相談が増えました。コロナがなければ起きなかったことが突然降りかかってきたのです。人間は非日常のことが突然起きると対応できず、限界をこすと、死を求めます。話は少し変わりますが、突然癌が見つかり、いじめにあつて、生きることが難しくなると「家族に迷惑をかけたくない。」と自死を選ぶ人がいます。それに比べて動物、植物、自然界は実に堂々としています。雨が降ろうが日が照ろうがカンカン照りになろうが、「しんどい。痛い。苦しい。死にたい。水が欲しい。」と言う声を一度も聞いたことがありません。楠や桜などは生まれてから死ぬまで同じ場所で一ミリもびくともせず、風雨に絶えています。「偉いね。お利巧だね。カッコいいね。素敵だね。」と褒めてもくれず、反対に土足で子供によじ登られ、蟬におしっこをかけられ、自動車や自転車に擦られ、邪魔だといって枝を切られても、文句を言いません。そればかりか、天から降り注ぐ日差しを浴び、恵みの雨に潤され、聖霊の涼風に木の葉は喜びの声をあげて踊るのです。「被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。私たちは知っています。被造物のすべては、今に至るまで、ともにうめき、ともに産みの苦しみをしています。」(新約聖書ローマ人への手紙8章21. 22節)

「あなたがたのうちだれが、心配したからといって、少しでも自分のいのちを延ばすことができるでしょうか。なぜ着る物のことで心配するのですか。野の花がどうして育つのか、よく考えなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の1つほどにも装っていませんでした。」(新約聖書マタイの福音書6章27~29節)。

人間を含めて全被造物はそれぞれ、置かされた立場で使命を全うしなければなりません。それをせず、責任放棄をしているのは私達人間だけです。造物主なる神様を信じ、自分の使命を置かされた場所で忠実に行うものとなりましょう。